



## 麻酔に関する成人患者 への情報

この文書は、フランス麻酔集中治療学会 (SFAR) が CISS (Collectif Interassociatif Sur la Santé) のユーザー代表と共同で作成したもので、さまざまな麻酔技術とその起こりうるリスクについてお知らせすることを目的としています。  
麻酔科医から提案される麻酔方法に同意していただくため、よくお読みいただくようお願いいたします。  
また、麻酔に関する質問を医師にすることができます。医療行為や手術行為に関する質問については、担当医が答えることになります。

### 1. 麻酔とは何か？

麻酔とは、外科手術、産科手術、内科手術（内視鏡検査、放射線検査など）を、手術中および手術後の痛みを除去または軽減し、最適な安全状態で実施するための一連の技術です。麻酔には大きく分けて、全身麻酔と局所麻酔の2種類があり、不適切な呼び方として "局所麻酔" のことです。

- **全身麻酔**は、薬物を注射したり、麻酔の蒸気を吸ったりすることで、眠っているような状態になり、その深さを調節することができます。
- **局所麻酔**は、手術が行われる部位だけを麻痺させることができます。原理は、局所麻酔薬をその近辺に注射することで、この部位の神経を遮断することです。麻酔薬を神経の近くに位置させた器具（カテーテル）から注入することで、術後数日間、麻痺を延長することが可能です。  
**脊髄麻酔**と**硬膜外麻酔**は、局所麻酔の中でも特殊な形態で、脊髄から出る神経の近くに麻酔薬を注入するものです。  
全身麻酔と局所麻酔の併用は、特に必要な場合、あるいは局所麻酔が不十分な場合や失敗した場合、併用することがある。
- チームによっては、特定の処置の代替技術として催眠術を提供することもあります。催眠術は単独で、または他の麻酔技術と組み合わせて使用されます。

### 麻酔相談

緊急性のない手術のために全身麻酔や局所麻酔を行う場合は、数日前に**相談いたします**。その際追加の診察や検査が必要な場合があります。

麻酔の相談は、麻酔科医によって行われます。このカウンセリングと麻酔前の診察で、**患者さんのケースに合わせたさまざまな麻酔法について説明**します。また、患者さんの情報を得るためにいくつかの質問をいたします。また、医師との対話の中で、ご希望をお伺いすることもあります。

**麻酔の種類**は、手術内容、健康状態、追加で処方された検査の結果に応じて**選択**されます。入院中に麻酔科医と再会します（麻酔前訪問）。麻酔を行う医師は、必ずしもカウンセリングや麻酔前診察で診察した医師とは限りませんが、あなたの医療情報を把握しています。必要であれば、最初に計画した術式を変更しなければならないこともあり、緊急の場合を除き、その旨をお知らせします。

## 2. 麻酔中や覚醒時のケアについて

麻酔は、その種類にかかわらず、あなたの症例に適合した機器を備えた部屋で行われ、使用前に毎回チェックされます。これらの技術的なチェックでは、お客様の身分証明、手術の内容や側面の確認が義務付けられています。

手術終了後は、手術後の監視室（「回復室」）で継続的に監視されます。麻酔中および術後監視室での滞在中は、麻酔科医の医学的責任のもと、専門家チームによってケアされます。

## 3. 麻酔のリスクは？

大多数の麻酔は特に問題なく行われていますが、麻酔は、たとえ効果的で、利用可能な最善の科学的根拠に従って行われたとしても、リスクを伴います。麻酔や回復期のモニタリングが可能な現状では、異常の早期発見・治療が可能です。麻酔による重篤な合併症（心臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症）は非常に稀になっています。

重大な合併症とは別に、麻酔や手術には時にアクシデントが付きものです。これらのリスクや不都合は、常に発生するわけではありません。また、ご自身の感受性や健康状態、麻酔の時間や方法などにも左右されます。

## 4. 全身麻酔のデメリットやリスクは何ですか？

これらの症状は、通常、一時的なものであり、持続する場合は、できるだけ早く報告してください。

- 麻酔の前に**絶食と禁煙**をお願いします；これは安全のためです。断食は、吐いたものが肺に入るという重大な事故を回避するためです。したがって、これらの指示には従わなければいけません。
- 起床時に**吐き気や嘔吐**が起こることがある。
- 製品が注入された**静脈に痛みを伴う赤み**が見られることがあります。
- 麻酔時に呼吸を補助するために気管やのどにチューブを入れる（挿管）と、**起床時にのどが痛くなったり、声がかすれたり**することがあります。
- また、**歯の外傷**も考えられます。そのため、特に入れ歯や歯の脆弱性がある場合は報告してください。
- 手術台での長時間の体勢は、特に特定の神経を圧迫することになり、**腕や脚のしびれ**や例外的に一時的な麻痺を引き起こすことがあります。
- 全身麻酔をした後、手術の記憶が残ることがあります。麻酔後の数時間は、**記憶障害や集中力の低下**が起こることがあります。重度のアレルギー、心停止、窒息などの生命を脅かす予測不可能な合併症は、極めてまれです。

## 5. 局所麻酔のデメリットやリスクは何ですか？

- 局所麻酔が不完全な場合、追加麻酔や全身麻酔が必要になることがあります。このため、全身麻酔の場合と同様の**絶食指示がおこなわれます**。
- **髄周囲麻酔**（脊椎麻酔、硬膜外麻酔）
  - ← 髄周囲麻酔が必要な場合があります。
    - は、困難な場合、**穿刺を繰り返す**ことができます。
    - **排尿困難**な場合、一時的に尿道カテーテルを留置する。
      - ・ **頭痛**が発生することがあり、数日間の安静および/または特定の治療が必要な場合があります。
    - ← **ごくまれに**、一時的に聴力が低下したり、視界がぼやけたりすることがあります。

DeepLソフト翻訳、筑波先生による校正